



## 第1回シナリオプランニング「ライフ」セッション テーマ:「2025年の超高齢社会における非高齢者の生き方」

2014年8月6日、第1回シナリオプランニング「ライフ」セッションを開催いたしました。  
「2025年の超高齢社会における非高齢者の生き方」をテーマに、  
社内外から23名のみなさまにお集まりいただき、約3時間オープンに議論を交わしました。  
その様子をお伝えします。



## <プログラムの内容>

### シェア・セッション

今日何を考えていくのかを参加メンバー全員で共有

#### **Session1 「シナリオに出会う」**

- 1-1. 本セッションについて
- 1-2. ゴール・進め方
- 1-3. 参加者からひとこと
- 1-4. 4つのシナリオ紹介

### クリエイティブ・セッション

グループワークを中心にアイデアを広げて、深める

#### **Session2 「アイデアを広げる」**

- 2-1. 「働」「住」「食」に関するシナリオ別ストーリー紹介
- 2-2. ペアトーク
- 2-3. チームブレスト
- 2-4. アイデア投票

#### **Session3 「アイデアを深める」**

- 3-1. 投票結果発表
- 3-2. 特徴の発見
- 3-3. マクロ描写
- 3-4. 全体共有



## セッションテーマの設定について

シナリオプランニング「ライフ」セッションのテーマは

「2025年の超高齢社会における非高齢者の生き方」です。

10年後の2025年、国内では総人口に占める老年人口が増加し、超高齢社会の到来が確実視されています。

団塊の世代も後期高齢者となる2025年、人口減少による経済の低迷や要介護人口の増加など、非高齢者の負担も大きくなることが予想されています。

一方で、非高齢者の“価値観の転換”により、働き方や住まい方などのライフスタイルの変化が、社会の豊かさを創出する可能性もあります。

そこで、シナリオ・プランニング「ライフ」セッションでは、超高齢社会の非高齢者の生き方に焦点を当てて、10年後の社会の可能性をシナリオとして描き、新たな社会課題抽出への認識を共有していきます。



## *Session 1* 「シナリオに出会う」



## 「不確実だが起こりうる可能性のある未来」を複数描き出す

「未来は不確実なもの」という前提に立ち、参加メンバーのみなさまとの創造的な対話から、一緒に未来を考えていきます。描いた未来が正しいか、良いか悪いかといった点を掘り下げるのではなく、「不確実だが起こりうる可能性のある未来」を複数描き出す。より良い未来を考え、みんなで未来の姿・可能性を共有する。さらに、未来に向けて、個人の情報への感度や行動を変えていく。これによって、みんなでありたい未来を創り出すために、協力できるようにしたいと考えています。



## 未来シナリオをつくり、その社会の課題・ニーズを発見する

第1回目は“マクロな未来社会の描写”と題し、4つのシナリオを参加メンバーのみなさまと共有することで、今はまだ考えつかないような、その社会ならではの新たな課題やニーズを発見していきます。課題やニーズが見つければ、それを企業が持っているシーズや行政、NPO等、いろいろな知恵と組み合わせ、新たなビジネスやソリューションを生み出していくことができます。みんなで共有し広げていくことで、社会全体のイノベーションをつくる選択に向かって行きたいと考えています。

※第2回目は“人物像・生活ストーリーの描写”、第3回目は“課題・ニーズの抽出、サービスコンセプトづくり”を開催予定です。全3回のセッションで、未来シナリオをつくり、その社会の課題・ニーズを発見していきます。

問い

2025年の超高齢社会における非高齢者の生き方

ゴール

未来シナリオをつくる、その社会の課題・ニーズを発見する

### 今回のセッション

未来シナリオのアウト  
ラインを創造する



未来シナリオを洗練化  
する

- ・フィールド調査
- ・有識者等による検証



ビジネスへの道筋を  
つくる

- ・シーズとニーズのすり合せ
- ・ビジネスモデルアイデア  
創造



社内のイノベーション、  
社会のイノベーション  
につなげる



#### 【第1回セッション】

8/6(水)18~21時  
“マクロな未来社会の描写”

#### 【第2回セッション】

8/25(月)18~21時  
“人物像、生活ストーリーの描写”

#### 【第3回セッション】

9/9(火)18~21時  
“課題・ニーズの抽出、  
サービスコンセプトづくり”

## 生活者の視点からバックキャストしていく

HRIは社会や生活の未来を考える研究所です。現状からの延長線上で未来を正しく読み取っていくことは難しい。だとしたら、みんなが関心を持っている未来をみんなで作っていきましょう。そのためには、どんなニーズがあって、どんな課題を解決していけばいいのか。未来シナリオからバックキャストしていこうというアプローチを取っています。超高齢者社会というのは、今、どんな場所でも未来を考える上で、一番確度の高い予測できる未来かもしれません。しかし、その中で、非高齢者の生き方はまだまだ可能性があると考えています。「あの世界」にいる自分を想定しながら自分ごととして考えていく。所属や肩書、専門性などにとらわれず、できるだけオープンな環境で、できるだけいろんな意見を持ち寄って、未来をみなさんとシェアしていきたいと思います。





この後、参加メンバー全員の自己紹介が行われました。オープンな議論の場とするため、所属などはふせて、ニックネームと10年後までに自分や社会について変えたいことを発表していただきました。



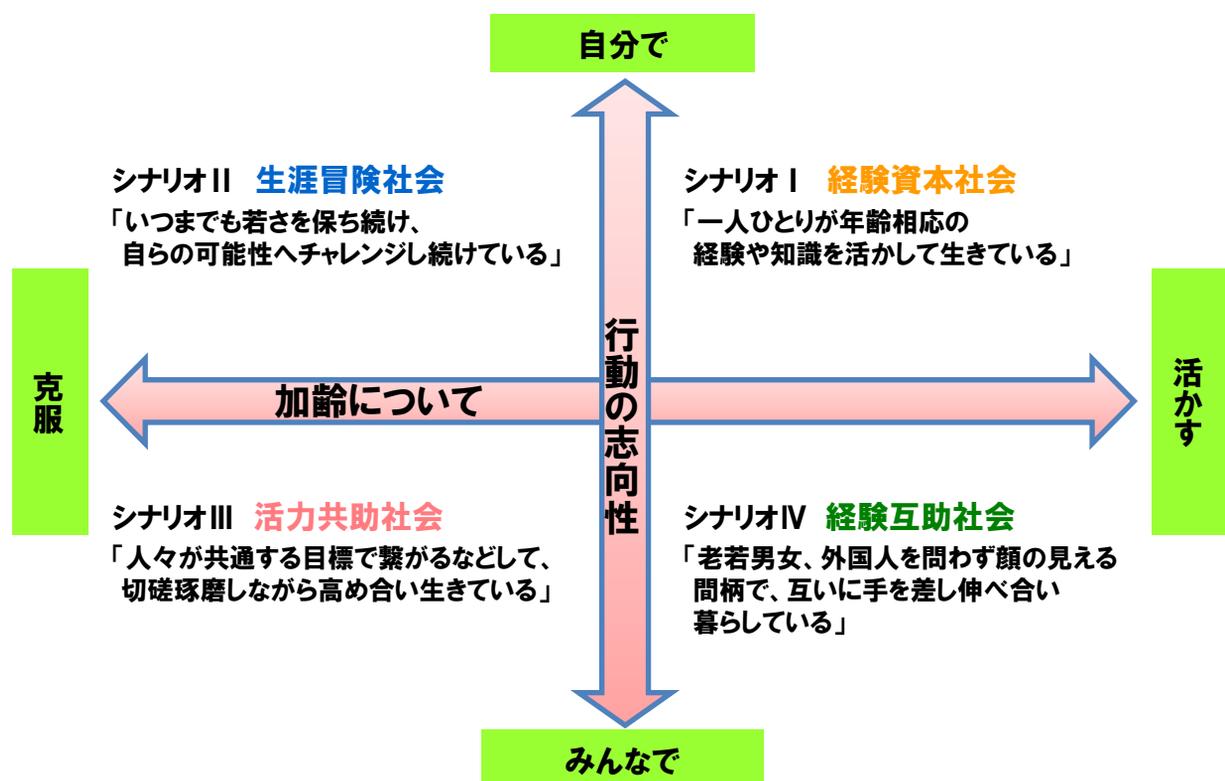
## Session1-4 「シナリオに会う」 4つのシナリオ紹介

### 「加齢について」「行動の指針について」 2軸から4つのシナリオを描く

参加メンバーのみなさまと4つのシナリオを共有しました。シナリオの設定にあたっては、不確実でインパクトが大きいものは何かということを中心にHRIで議論し、「加齢について」「行動の指針について」の2軸を設定。そこから4つのシナリオを描きました。

- ◆加齢について：これを今後「活かす」方向に行くのか「克服する」方向に行くのか。活かすというのは年齢相応の経験や周りにあるネットワークなど、いろんなものを活かしながら豊かに暮らしていくこと。一方、克服というのはアンチエイジングなど、自分の力を超えるような方向に向かっていくものです。
- ◆行動の志向性について：たとえば「自分で」お金を払ってサービスを受けるというのは、まさに自分で判断して自分の価値基準で動いているわけですが、一方で、共存共栄のような「みんなで」何かをつくりあげていこうというようなものもあります。

あるシーンに立ち会ったときにまずどちらを優先して人は判断をするか。1つしかないというような軸ではなく、あるときの人の判断だったり社会の進むべき方向が、まずどっちを優先するかという捉え方で軸を設定しました。





## *Session2* 「アイデアを広げる」



## Session2-1 「アイデアを広げる」「働」「住」「食」に関するシナリオ別ストーリー紹介

HRIから4つのシナリオでの“働”、“住”、“食”に関する「行動特性」、「例えば・・・」を紹介。  
全員でイメージを膨らませていくヒントにしました。



## Session2-2 「アイデアを広げる」 ペアトーク

この後、4つのシナリオについて、どのシナリオのどんなところがよかったか、気になった点などを2人組になって話し合い、発表しました。



・シナリオIIについて話し合ったペア  
アンチエイジングなどがどんどん進歩していつ自分もそういうところののっかたらいいなと思う一方で、金銭的問題や技術的問題についていけないような人が出てくるはず。社会から取り残される人が出てくるというのが課題だと思いました。



・シナリオIVについて話し合ったペア  
みんなで行動していくなら知識を共有していくためのソリューションが生まれてくるはず。そうすると、一般的なことばかりに話がいき、そこからあふれた人が逆に孤独になるという課題が出てくるのではないかと考えました。

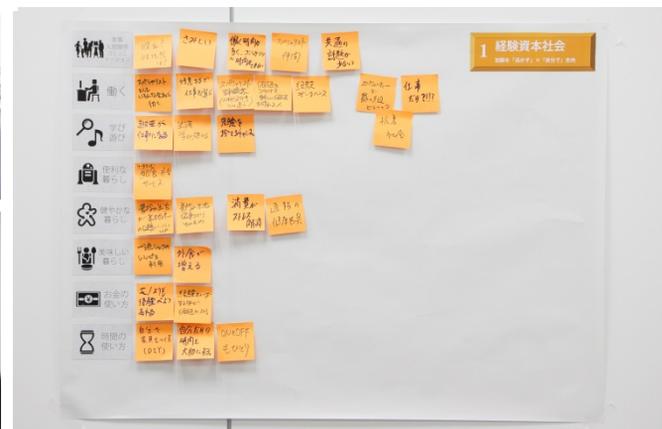


## Session2-3 「アイデアを広げる」 チームプレスト

チームプレストでは3~4名で1チームを組み、それぞれのチームが1つのシナリオについて、この社会ではこんなことが起きているのではないか、こんなことが気になっているのではないかといったことについて議論し、それらのアイデアを付箋に書き出していました。



## オープンな議論の場から複数の未来像を描いていく



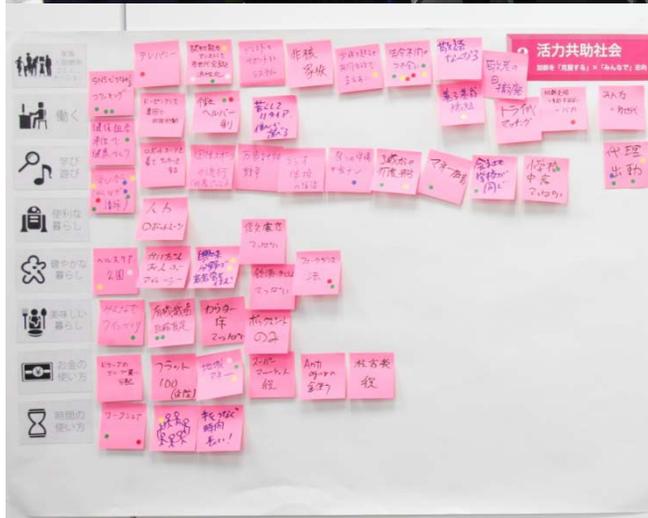
## Session2-4 「アイデアを広げる」 アイデア投票

参加メンバーのみなさま全員に、シナリオごとに出そろったアイデアについて、重要だと思  
うものに投票していただきました。

10年後の各シナリオで、

- ①起きてほしい変化や現象
- ②起きてしまいそうな変化や現象
- ③注目したい、気になる変化や現象

を自由に選んで、シールを貼っていただきました。





## *Session 3* 「アイデアを深める」



## Session3-1 「アイデアを深める」 投票結果発表・グループ分け

投票の結果、以下のアイデアが多くの票を集めました。この後、参加メンバーのみなさま一人ひとりに、4つのシナリオのうち、これから深めたいシナリオを1つ選んでいただき、シナリオ毎にチームを組んでいただきました。

### シナリオⅠ 経験資本社会

- ・子供との関わり出番が増える
- ・匠の技をみんなが尊敬する
- ・ロールモデルの幅が広がる
- ・一つのことを極める
- ・ものよりも経験が売れる
- ・負の経験を生かせる

### シナリオⅡ 生涯冒険社会

- ・超格差社会
- ・完璧生命維持装置
- ・会社がなくなる
- ・サプリのみで食が楽しめない
- ・70歳でジャニーズデビュー
- ・若い人が仕事なくなる
- ・がん・孤独になっていく

### シナリオⅢ 活力共助社会

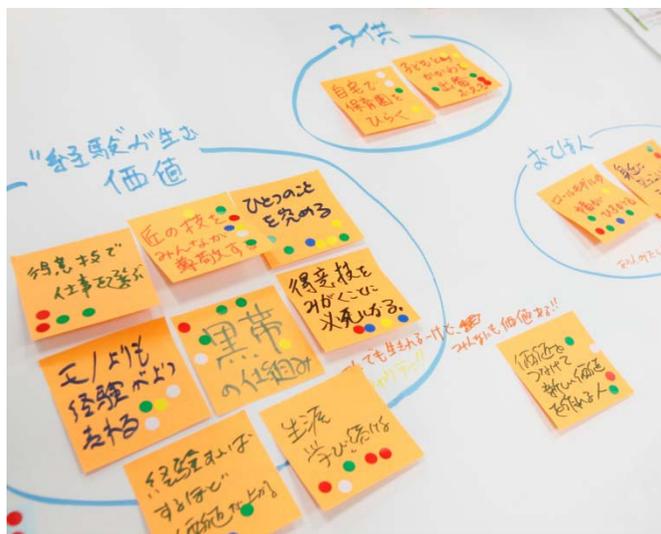
- ・年齢不問のお付き合い
- ・学び合う
- ・みんなが講師といえるような関係性
- ・農家が増える
- ・不健康な暮らしができない
- ・不健康な行動に課税
- ・日の出とともに起き日の入りとともに寝る

### シナリオⅣ 経験互助社会

- ・家族以外の血縁関係がない人とも一緒に暮らすようなコミュニティを構成している
- ・みんなといると疲れる
- ・他人との距離感をつくる社会
- ・物々交換
- ・信頼の見える化

## Session3-2 「アイデアを深める」 特徴の発見

各チームごとにシナリオの特徴を整理。投票数上位のアイデアを中心に、類似点や共通点のありそうなものをまとめ、まとめた分類にキーワードをつけていきました。



## Session3-3 「アイデアを深める」 マクロ描写

シナリオの社会像を整理し、10年後のシナリオのマクロな姿を描き出しました。

チームごとに話し合い、シナリオの社会像を以下の3つから整理していただきました。また、その社会をイメージした絵を描いていただきました。

- ①良いところ
  - ②困ったところ
  - ③新たに出現しているモノ・サービス・人
- そのイメージについて



## Session3-4 「アイデアを深める」 全体共有

最後に各チームが発表を行い参加メンバー全員で「不確実だが起こりうる可能性のある未来」を共有して、3時間にわたって行われたセッションは幕を閉じました。



### シナリオⅠ 経験資本社会

経験が価値を生んでいく社会を描きました。経験を積んだら積んだ分だけその人の価値が高まっていく。この社会は学ぶ機会が多い一方で、経験を積んでない人は評価されない。また、「経験」をどう評価したらいいのかという点が課題であると同時に、ささいな特技も価値として認める仕組みができているはずだと考えました。たとえばITのスキルがそんなになくても自分はこんなに人脈がある等、ささいな特技を価値化できている社会が訪れていると思います。



### シナリオⅡ 生涯冒険社会

年齢を意識せず不良中年がもてはやされるような社会を描きました。人の入れ替わりが激しいため飽きたら次々と新しいことをしていくプロジェクト型社会とも言えます。感性が若いいろんな人が恋愛感情を持つことができる一方、子どもを育てることが面倒だからやりたくないと言う人も出てくる可能性があります。また、自分でどんどんものごとを解決していかなくてはいけないため、努力できる人じゃないと辛い社会。さらに、加齢を克服してどんどん寿命が延びていくため世代交代が進まない。そんな社会では、いつまでも若々しくいるためのどうすればいいかをデザインするような仕事が出てくるのではないかと考えました。



## シナリオⅢ 活力共助社会

年齢不問の社会が訪れるのではないかと考えました。お互いに助け合っているため差別がなく、ワーキングシェアなど年齢や組織が関係なくなる。また健康が第一の社会になり、今以上に健康であることを推奨する制度ができてくるのではないかと思います。一方で、みんなで助け合っているので一人の時間がない。自由な時間がないから、病気体験ホテルや不良体験サービスのようなものが出てくるかもしれない。また、ICT農業や農作物発育増進装置、超マクロな植物工場のようなものが出てくる可能性もあります。



## シナリオⅣ 経験互助社会

家族のようなつながりが広がり、近所の人と助け合いながら暮らすことができます。一方で、コミュニティの力が強い分、村八分のようなことが起きる可能性がある。さらに他人との距離のとり方が難しく、みんなしていると疲れる社会。そんな社会では、信頼関係がある程度見える化される必要があります。しかしかつてのコミュニティと比べると、地縁だけではなく自分で所属するコミュニティを選ぶことができ、お金以外にも信頼できるものがある。さらに価値観も変遷して、自分で所有することがすべてという考えから、「共有」という方向性にどんどん向かっていくのではないかと考えます。あらゆる世代、みんなが居場所ができる。弱い人に偏見がないから行政コストも低減されるでしょう。子どもたちは早くから自分たちの人生を考えることになるのでライフデザイン教育も発展します。コミュニティの求心力が高いため、どんなコミュニティが一人ひとりにとって最適なものをレコメンドするサービスも生まれてくると思います。一方で村八分になった人の受け皿をどうするかといった懸念点もあります。コミュニティ間のつながりというものも工夫していくとさらにもっと楽しい社会にできるんじゃないかと考えます。



## 次回セッションへのブリッジ

### ～10年後のシナリオのミクロな姿へつなげていく

今回のセッションで、大まかなマクロ的な視点で様々な未来の社会像が抽出されました。

超高齢社会の必然として、もはや「老い」はポジティブに受け止められる時代にならざるを得なくなるのではないかという意見が目立ちました。

その一方で、そこから派生するネガティブな状況も垣間見えてきたように思われます。

しかしマクロ的な視点だけでは、その未来社会が抱える課題は抽象的にしか見えてきません。

次回のセッションではここで描かれた未来社会像をとっかかりにして、より具体的にミクロ的な視点で、未来社会のイメージと、そこで生じているであろう課題について抽出してみたいと

思っています。例えば今30歳の方は10年後40歳になっていますが、その人の人物像がどのよ

うに変化しているか、その人を取り巻く環境としての社会はどのように変わっているだろうか、

そうした観点で、今回同様に様々なバックグラウンドを持つ人たちとの対話の中から、未来社

会像の一層の具体化を試みていきます。ある人物に視点を絞って、その人物像、その生活

シーンをストーリーにして構成します。そのうえで、その人が抱えている問題を起点に、そこから

普遍化する格好で未来社会が抱えているかもしれない問題や課題をリアルなイメージで描いていきます。

参加者の皆さんには、このセッションで得られた洞察や気づきを持ち帰っていただき、ご自身の仕事や生活の場面で活かしていただきたいと思います。